

# 衛生管理者免許試験 公表問題

## 労働衛生（有害業務に係るもの以外）

- ① 温熱条件
- ② 視環境
- ③ 必要換気量
- ④ 快適職場
- ⑤ 労働安全衛生マネジメントシステム
- ⑥ 腰痛予防対策
- ⑦ 受動喫煙防止のガイドライン
- ⑧ 食中毒
- ⑨ 感染症
- ⑩ 情報機器作業
- ⑪ 労働衛生対策
- ⑫ 健康保持増進
- ⑬ メンタルヘルス対策
- ⑭ エイジフレンドリー
- ⑮ 健康診断の検査項目
- ⑯ 労働衛生管理統計
- ⑰ 脳血管障害・虚血性心疾患
- ⑱ 一次救命処置
- ⑲ 出血・止血法
- ⑳ 熱傷
- ㉑ 骨折

【令和 8 年 4 月】

【問 3 3】 一次救命処置に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 一次救命処置は、できる限り単独で行うことは避け、大声で周囲に呼びかけ、応援を求める。
- (2) 傷病者の胸と腹部の動きを観察し、胸と腹部が上下に動いていない場合やよくわからない場合には、心停止とみなし、心肺蘇生を開始する。
- (3) 胸骨圧迫は、胸が約 5 cm 沈む強さで胸骨の上半分を圧迫し、1 分間に 100～120 回のテンポで行う。
- (4) 気道を確保するためには、片手で額を押さえながら、もう一方の手の指であご先を上へ引き上げるようにする。
- (5) AED（自動体外式除細動器）を用いた場合、電気ショックを行った後や電気ショック不要の音声メッセージが出たときは、胸骨圧迫を再開し、心肺蘇生を続ける。

▶▶解説◀◀

- (1) (2) (4) (5) 正しい
- (3) **誤り**：「胸骨の上半分」⇒「胸骨の下半分」

\*解答\* (3)

## 【令和3年4月】

【問38】 一次救命処置に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 傷病者に反応がある場合は、回復体位をとらせて安静にして、経過を観察する。
- (2) 一次救命処置は、できる限り単独で行うことは避ける。
- (3) 口対口人工呼吸は、傷病者の鼻をつまみ、1回の吹き込みに3秒以上かけて傷病者の胸の盛り上がりが見える程度まで吹き込む。
- (4) 胸骨圧迫は、胸が約5cm沈む強さで、1分間に100～120回のテンポで行う。
- (5) AED（自動体外式除細動器）による心電図の自動解析の結果、「ショックは不要です」などのメッセージが流れた場合には、すぐに胸骨圧迫を再開し心肺蘇生を続ける。

▶▶解説◀◀

- (1) (2) (4) (5) 正しい
- (3) **誤り**：「吹き込みに約3秒かけて」⇒「吹き込みに約1秒かけて」

\*解答\* (3)

【令和2年10月】

【問38】 一次救命処置に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- (1) 呼吸を確認して普段どおりの息(正常な呼吸)がない場合や約1分間観察しても判断できない場合は、心肺停止とみなし、心肺蘇生を開始する。
- (2) 心肺蘇生は、胸骨圧迫のみではなく、必ず胸骨圧迫と人工呼吸を組み合わせで行う。
- (3) 胸骨圧迫は、胸が約5cm沈む強さで胸骨の下半分を圧迫し、1分間に少なくとも60回のテンポで行う。
- (4) 気道が確保されていない状態で人工呼吸を行うと、吹き込んだ息が胃に流入し、胃が膨張して内容物が口の方に逆流し気道閉塞を招くことがある。
- (5) 口対口人工呼吸は、傷病者の鼻をつまみ、1回の吹き込みに3秒以上かけて行う。

▶▶解説◀◀

- (1) 誤り：「約1分間観察しても判断できない場合は、心肺停止とみなし、心肺蘇生を開始する。」  
⇒「判断できない場合は、心肺停止とみなし、心肺蘇生を開始する。なお、呼吸の確認は迅速に10秒以内で行う。」
- (2) 誤り：「必ず胸骨圧迫と人工呼吸を組み合わせで行う」⇒「人工呼吸が可能な場合は、胸骨圧迫と人工呼吸を行う」。
- (3) 誤り：「1分間に60回のテンポ」⇒「1分間に100～120回のテンポ」
- (4) 正しい
- (5) 誤り：「1回の吹き込みに3秒以上かけて」⇒「1回の吹き込みに約1秒かけて」。

\*解答\* (4)

【令和2年4月】

【問36】 一次救命処置に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 傷病者に反応がある場合は、回復体位をとらせて安静にして、経過を観察する。
- (2) 一次救命処置は、できる限り単独で行うことは避ける。
- (3) 口対口人工呼吸は、傷病者の鼻をつまみ、1回の吹き込みに約3秒かけて傷病者の胸の盛り上がりが見える程度まで吹き込む。
- (4) 胸骨圧迫は、胸が約5cm沈む強さで、1分間に100～120回のテンポで行う。
- (5) AED(自動体外式除細動器)を用いた場合、電気ショックを行った後や電気ショックは不要と判断されたときには、音声メッセージに従い、胸骨圧迫を再開し心肺蘇生を続ける。

▶▶解説◀◀

- (1) (2) (4) (5) 正しい
- (3) **誤り**：「吹き込みに約3秒かけて」⇒「吹き込みに約1秒かけて」

\*解答\* (3)

## 【令和元年 10 月】

【問 4 0】 一次救命処置に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 傷病者の肩を軽くたたきながら「大丈夫ですか?」と呼びかけて、反応がない場合は、その場で大声で叫んで周囲の注意を喚起し、応援を呼ぶ。
- (2) 反応はないが普段どおりの呼吸をしている傷病者は、回復体位をとらせて安静にして、経過を観察する。
- (3) 人工呼吸が可能な場合、心肺蘇生は、胸骨圧迫 30 回に人工呼吸 2 回を繰り返して行う。
- (4) 口対口人工呼吸は、傷病者の鼻をつまみ、1 回の吹き込みに約 3 秒かけて傷病者の胸の盛り上がりを確認できる程度まで吹き込む。
- (5) 胸骨圧迫は、胸が約 5 cm 沈む強さで、1 分間に 100～120 回のテンポで行う。

### ▶▶解説◀◀

(1) (2) (3) (5) 正しい

(4) **誤り**：「吹き込みに約 3 秒かけて」⇒「吹き込みに約 1 秒かけて」

\*解答\* (5)

【平成 31 年 4 月】

【問 3 6】 一次救命処置に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 傷病者の反応がない場合は、その場で大声で叫んで周囲の注意を喚起し、協力者を確保する。
- (2) 周囲に協力者がいる場合は、119 番通報や A E D（自動体外式除細動器）の手配を依頼する。
- (3) 口対口人工呼吸は、傷病者の気道を確保してから鼻をつまみ、1 回の吹き込みに約 3 秒かけて傷病者の胸の盛り上がりが見える程度まで吹き込む。
- (4) 胸骨圧迫は、胸が約 5 cm 沈む強さで、1 分間に 100～120 回のテンポで行う。
- (5) A E D を用いた場合、心電図の自動解析の結果「ショックは不要です」などのメッセージが流れたときには、胸骨圧迫を開始し心肺蘇生を続ける。

▶▶解説◀◀

(1) (2) (4) (5) 正しい

(3) **誤り**：「吹き込みに約 3 秒かけて」⇒「吹き込みに約 1 秒かけて」

\*解答\* (3)

【平成 30 年 10 月】

【問 37】 一次救命処置に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 傷病者の肩を軽くたたきながら「大丈夫ですか？」と呼びかけて、反応がない場合は、その場で大声で叫んで周囲の注意を喚起し、応援を呼ぶ。
- (2) 傷病者に反応がなく、周囲に協力者がいる場合は、119 番通報や A E D の手配を依頼する。
- (3) 口対口人工呼吸は、傷病者の鼻をつまみ、1 回の吹き込みに約 3 秒かけて傷病者の胸の盛り上がりを確認できる程度まで吹き込む。
- (4) 胸骨圧迫は、胸が約 5 c m 沈む強さで、1 分間に 100～120 回のテンポで行う。
- (5) A E D を用いた場合、電気ショックを行った後や電気ショックは不要とメッセージがあったときには、胸骨圧迫を再開し心肺蘇生を続ける。

▶▶解説◀◀

(1) (2) (4) (5) 正しい

(3) **誤り**：「吹き込みに約 3 秒かけて」⇒「吹き込みに約 1 秒かけて」

\*解答\* (3)

【平成 30 年 4 月】

【問 3 4】 一次救命処置に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 傷病者に反応がある場合は、回復体位をとらせて安静にして、経過を観察する。
- (2) 一次救命処置は、できる限り単独で行うことは避ける。
- (3) 口対口人工呼吸は、傷病者の鼻をつまみ、1回の吹き込みに3秒かけて傷病者の胸の盛り上がりが見える程度まで吹き込む。
- (4) 胸骨圧迫は、胸が約5cm沈む強さで、1分間に100～120回のテンポで行う。
- (5) AED（自動体外式除細動器）を用いた場合、電気ショックを行った後や電気ショックは不要と判断されたときには、音声メッセージに従い、胸骨圧迫を再開し心肺蘇生を続ける。

▶▶解説◀◀

- (1) (2) (4) (5) 正しい
- (3) **誤り**：「吹き込みに約3秒かけて」⇒「吹き込みに約1秒かけて」

\*解答\* (3)